

まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月5日(水) 午後6時00分～午後7時30分
場 所	啓南多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性12名 女性13名 合計25名

会 議 の 概 要

1 開会 【総務部長 司会進行】

2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんばんは。夕食どき、そして寒い中、こうして出席いただきましてありがとうございます。昨日から14日までにかけまして、市内11か所、6日間にわたりまして懇談会を持たせていただくところですが、今日が二日目となります。また、皆様には、日頃から市政やまちづくりに関しましてご支援・ご協力をいただいていることへこの機会に厚くお礼を申し上げます。

さて、積雪が少ない穏やかな冬が続いておりますが、このまま少雪の状態が続きますと、雪を必要とする産業もあります。特に越冬作物や水稻栽培など、農業への影響が懸念をされるところです。今後の推移を見守っていくとともに、必要な手立てについても検討していかなければならないと考えております。そして、この一月から中国で発生しました新型コロナウイルスの感染が日本国内、そして道内を含めて世界的に拡大しており、収束の兆しが見えない状態です。この予防対策をしっかりと進めていかなければならないと思っております。

そういう中におきまして、本日の懇談会は先ほど司会者からありましたように、市が直面する大きな2つの課題について、今後の取り組みを行って行くうえで、現状をお伝えしてご意見をいただきたいと考えています。

詳細については担当からご説明申し上げますけれども、概括を申し上げますと、一つは市役所の庁舎についてであります。この庁舎につきましては、昭和44年に建設しており、50年が経過しようとしています。このため、老朽化が進んでいること、更には耐震化も劣っており、芦別は地震が少ない恵まれた土地柄ではありますが、震度6強では倒壊の恐れがあると言われております。こういったことなどを踏まえまして、将来にわたって市民の皆様が必要とされる行政サービス、防災の砦という観点からも機能をしっかり保全していくということが、行政として求められているわけでありまして、したがって長期的な観点に立つと建て替えが最善策であると認識しておりますが、多大な事業費等が必要となりますので、国の支援、もちろん市の財政面も十分念頭に入れながら検討を加えて行かなければならないと思っております。

もう一つは市立病院の事ですが、人口の減少、さらには常勤医師の不在といったことから、厳しい環境におかれているところでございます。昨年、厚生労働省から全国で424の病院、道内においては54の病院を再編・統合の対象とするとし、その一つに芦別市立病院が中空知で唯一対象となったところです。市民の皆さんから、市立病院がなくなるのではないかと心配の声をお寄せいただいたところですが、市民の皆さんの命や健康を守るという使命を果たす唯一の公立病院でありますので、なくすことがあつては、市民の安全・安心な暮らしに多大な影響を及ぼしかないと思っております。また、

先月25日に有識者で検討しました検討委員会で一年間かけて市立美容院の将来のあり方について検討をいただきました。その答申が出され、内容についてはこの後お知らせしますが、市としても答申をしっかりと受け止めまして、市民の皆さんから安心をいただける医療の提供ができるようさらに検討を加えいくことが重要だと思ひますし、可能な限り、今ある医療資源を持ちながら他の病院との連携も視野に入れ、芦別市の実情にあった医療を提供できる病院として、維持・存続させていこうと考えております。そのためには、市民の皆さんに支持をされ、そして支えていただければならないと思ひています。

こういったことを踏まえ、皆様から忌憚のないご意見等をいただき、有意義な懇談の場となりますようにご協力をお願い申し上げ、開会にあたってのあいさつといたします。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 説明事項【担当者より説明】（資料添付省略）

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
 - ・北森カレッジの本市での実習について
 - ・新型コロナウイルスの対策等について

4 意見交換

○市民

新庁舎の耐震についてですが、素人目にはどこも崩れていないし建て替えなんて必要ないだろうと考えましたけども、以前、市役所のボイラーでお世話になっていて、隅々まで見ましたら、ボイラーの配管関係、特にトイレなんかはひどい状態でした。施設内の空気の調査に来ていると思ひますが、煙草の煙でなったと思ひのですが、サイレンのすぐ下のところに機械室があり、そのところに空気を出す機械と取り入れる機械がありますが、それが全て排出になっています。職員はご存知かと思ひますが、正面玄関から入ったら行き良い良く風が入ってきます。建物の中がマイナス気圧になりますから、外に引っ張られてしまい、トイレが臭いならわかりますが、流しまで臭い状況になっています。

はじめは、建替えるよりも改修する方が安いだろうと思ひていましたが、配管やりかえたり、天井裏はがしたりとか、業務を行いながらはできない事だろうと思ひ、建て替えの方が妥当だと思ひました。心配なのが昭和44年に今の庁舎が建った時は、人口が約2万人多かつた。一般家庭でも大きな買い物したら、何かを我慢しなければならないということで、職員も給料減額しているから皆さんの行政サービスを我慢してくださいということにならないかなと心配しています。

先月のニュースでやっていましたけど、道南の黒松内だったかと思ひますが、災害の時の電源を切っても強制的に電源が入って避難指示を促すラジオを無償で貸与するということです。芦別は他の町に先駆けて何かをすることは望みませんが、周りの市町村でやっているのに借金が多くてできないということにはなってほしくないです。

最後に、予定している庁舎の面積、何階建てを予定しているかを教えてほしい。

●危機対策課長

面積に関しては、資料の16ページ上部に記載しているとおおり、4,700から5,000㎡を予定しています。現庁舎よりも面積を縮小し、その中にエレベータや多目的トイレ等、新たなスペースが生じる部分がありますが、それらを含めての面積としています。ご指摘にあったように、将来的に職員の数が減ることも予想されていますので、例えば部署間の壁

が自由に動かせるのかも考えて、空きスペースに外にある部署が入れるだとか、民間施設が入るだとかできるように考えています。

建物に関しては、地下は作らないで三階建てのRC造りを考えています。また、木の事を進めていますので内装に取り入れていきたいと考えています。このことに関しては、今回お示ししたのが基本構想で、この後に基本計画を作っていくのですが、その中で触れていきたいと考えています。

ラジオの関係は、確かに無料で配布しているところがあるというのは聞いたことがあります。芦別でも考えたことはありますが、FMラジオが入らない地区もありまして、無料で貸してくれる事業に応募したことがあります。残念ながら対象に選ばれなかったのですが、今後もこういった事業の活用などを防災の面からも考えていきたいと思っています。

○市民

カナディアンワールドの発想はよかったが、結局、借金が残って皆さん苦しんだと思います。今、庁舎を建替えて、国からも補助は出るようですが、どのくらい借金があり、何年で返すのか教えてほしい。もう一つは、今の市役所にエレベータがなく、足の悪い方や高齢者が大変な思いをしています。新しく建てるのなら、市民のことを考えたらエレベータを設置していただきたいと思います。

●危機対策課長

エレベータは設置する予定になっています。また、バリアフリーによって、障がいを持っている方にも利用しやすい施設という風に考えています。

借金に関しては、25年で3年据え置きという形になっています。元金均等で毎年償還する額は違うのですが、1億1千万ほどとなります。先ほども説明しましたが、有利な借金を使うことによって、交付税として全体で7.16億円戻ってくる形となります。

○市民

現段階では庁舎の建設に反対です。芦別は借金があるし病院の事もあるので、庁舎はもう少し待っていただきたいと思います。借金があつて人口が減るのに、税金が入るところといえば北日本精機、企業が少ないから税金がものすごく少ない。赤平より企業がない。なので庁舎を建てるのは延ばしてもらいたいと思います。検討するのはいいが、病院問題が落ち着いてからとして、また、芦別は災害が少ないということからも先延ばしにしてほしいと思います。

●総務部長

反対というご意見をいただきました。庁舎は、先ほど説明しました通り、築後50年が経過して震度6強の地震で倒壊の恐れがある。芦別は災害が少ないところで、そういった心配がないのではないかというご意見もありました。地震でいうところの断層は、この付近にはないのですが、100パーセント大きな地震が来ないかというと、可能性はゼロではないということです。将来に向けて人口が減っていく、市の根幹である税収も減っていく中で取り組むべきではない、他にやることあるということですが、令和3年3月までに実施設計に着手することで、国から財政支援がある有利な起債を活用することができるということもあり、間に合わすことができないかと進めており、活用することで国から7.16億円のバックが得られます。将来的に庁舎の整備はしなければならないので、有利な財源があるうちにとということから、今日、説明させていただいたところです。今ほどいただいた意見は受け止めさせていただき、他の意見等を踏まえまして総合的に判断したいと思います。

○市民

私は、今やらなければこの先できなくなるということで賛成です。先日、用事があつて市長室に行きましたが、荷物を持って階段をやつとの思いで上がって行きました。転勤な

どでほかのまちにも行きましたが、エレベーターがない市役所は珍しいと思います。地球温暖化が進んで、過去になかったから大丈夫だろうという気持ちもわかりますが、もし起きた時に市役所が倒壊して機能しなくなった時にどうなるか。次の世代のことも考えて、それに対応できる立派な役所を作ってほしいと思います。お金かかるのはわかりますが、芦別出身の方が全国にたくさんいます。ネットで寄付金を募るとかして、IT等も活用できるような先進的な庁舎となればいいと思います。

●総務部長

賛成というお話を伺いました。今やらなければやれなくなるのではということでした。現在は整備をする方向で考えていますが、庁舎を建てるとしても他のところより立派なものではなく、身の丈に合った形で、できるだけコンパクトに、費用を抑え、将来に負担を残さないような形でというようなことを最初に考えていてかなければと考えています。それにつきましても、今後、基本計画、基本設計の中で、できるだけコンパクトな形をとっていけないかと検討をさせていただきたいと思います。

○市民

庁舎に関して、市民に責任を押し付けるようなことはしてほしくないと思います。

病院について、検討会を6回やっているということですが、今の状態で縮小などをどのように進めようと考えていますか。現状とするのか、ただ人員だけを変更するというようなのですか。

●病院事務課長

病床の規模含めて全体の規模だと思えます。病床数は、建設当初220床あり、平成15年に20床減らした経過があります。その後、医師が減るたびに病院の機能を少しずつ縮小し、つい最近までは129床と建設当初から半分ほどになっていました。しかし、稼働していた病床は、4回西病棟の53床と5回西の療養病棟の31床合わせて84床という状況であります。この時点で45床休んでいました。

今回の答申が出る前、昨年2月に検討委員会ができて以降、第2回の委員会の時に病院の方から病棟再編をやりたいと提案をし、委員会から病床削減には異論がないということで、6月の定例市議会に病床削減の条例案を提出して、一般を60床、療養を40床、合わせて100床に縮小しています。ただし、その段階においても動いている病床は、4回西病棟の53床と5回西の療養病棟の31床合わせて84床となっていて、今回、答申をいただいたのは、100床としていたものを99床にするという内容で、減った数としては少なく感じるかもしれませんが、もともと100床に減らしていたので、相対的にはこの一年間で30床減らしていることとなります。それでも稼働しているのが84床なので多いのではないかという声も聞かれますが、今回、委員からは、市内の市立病院以外にもいくつかの医療機関があり、今後病床を減らす可能性があることがあげられました。また、昨年10月に藤島先生が亡くなったことで医療機関も少なくなってきており、今まで藤島先生にかかっていた方が市立病院の外来にかかり、それによって入院する方が増えるかもしれないことを考えると、病床数を一気に減らしてしまうのはどうなのか、今、行うものではないという話がありました。このことから、まずは30床減らした中で運用をしつつ、また、今回の付帯意見でも出たのですが、病院内部、他の医療機関等の外部の状況に変化があった場合、その都度、病床数の見直しを行うとありましたので、今回は99床に削減し、以降は状況を見ながら判断していきたいと考えています。

○市民

救急車で病院に運ばれて、異常ないから帰っていいと言われたときに、夜中だとタクシーがやってないので帰れない。議会でも出ていると思いますが、その辺の対策はどうしていますか。

●病院事務課長

議会でも質問があり答弁した経過がありますが、午前1時30分を過ぎるとタクシー利用ができないと思います。救急車で来られた方が入院する必要がない場合にタクシーがない、家族がいなくて帰る手段がないということがあるかと思います。数は少ないのですが、本来であれば入院してもらうのがベストだと考えています。その時間に外来に残っていると、そこに誰かが付かなければならないということになり、病院の機能を縮小した中で、夜間の看護師は1名体制としていますので、そこに看護師が付くとなると仮眠をとることができない、またはスタッフを呼ばなければならないこととなります。人件費の問題もありますので、帰れない場合は入院していただくことも考えるのですが、そうすると病棟のスタッフも夜間は少ないので、夜中の入院の場合、病棟スタッフの誰か1人が付かなければならないという問題もあることから、できるだけ帰宅していただきたい。ただし、帰る手立てがないという場合、守衛が巡回するとして、処置室なりに残っていただき、タクシーが動く午前7時に帰宅してもらおうということで、これまで2人ぐらいそのような対応をしたという実績があります。セキュリティ上、望ましくないのですが、どうしても帰れない時にはそのような対応を取っています。

○市民

岩見沢労災に検診に行きました。検診中に38度ぐらいの熱が出まして、検査はいいから帰って休んでほしいと言われました。富良野号で行ったものですから、結構外国の方が乗っていました。医者もかなり敏感になっていました。芦別でこのような人が多く出た場合に対応策を考えているのか教えてほしいです。

●病院事務課長

コロナウイルスの事だと思いますが、以前 SARS というコロナウイルスとは違う肺炎を引き起こす病気があった時に各病院どうするかということを決めた経過があります。当院ではどうするかというのは、事前に電話をいただいてから来てもらうというのが第一で、電話なく来院したときにその病気だった場合、かなりの確率で周りに菌を広めてしまうことがあります。まずは電話をしていただいて来ていただきたいと思います。その時には、SARSの時の対応として、救急外来から入っていただいたので、そこにある個室で待機する形で、他の患者と接触しないようし、検査の結果、陽性の場合、当院に感染病棟がなく、近隣では砂川、医療圏は違いますが深川などの大きい病院の感染病床に入ってもらうのが本来の姿となっています。当院にかかる場合は、皆さんと導線を別にして検査をすることから、先ほど申しあげたとおり、電話をいただくのもそうですし、マスクをしていただくなどして、菌をそれ以上広めないようにするとともに、他の病院にもおいていますが、インフルエンザに効果があり、コロナウイルスにも効果があると言われているアルコール消毒がありますので、病院に入る時にはしていただきたいと思います。そうした対応を取ったうえで、事例が発生した場合は、滝川保健所や北海道の判断を仰ぐというマニュアルになっています。

○市民

救急車は使えるのですか。

●病院事務課長

その時点で確定診断ができないので拒まないと思います。できれば、滝川保健所に電話をして、どのような対応をとればいいのか判断を仰いでほしいと思います。

○市民

朝に新聞を広く時に空知版で芦別の良いニュースがないかと探すがなく、お悔やみを見ると去った人の名前が載っていて、あまりいいニュースがないのですが、ふるさと納税が好評だったと聞いています。職員の努力の元に少しでもプラスになるように頑張ってもらいたい。

いと思います。

○市民

病院にいろんな科があつて、2階に小児科とか耳鼻咽喉科とかありますが、眼科なら週2回とかやっています。しかし、耳鼻咽喉科は週に1回で、泌尿器科は一週間やっていますけれど、週に1回のところはすごく混んでいます。週に2回できるような体制にはならないのですか。

●病院事務課長

あり方検討委員会の委員さんから外来機能の強化を進めるべきとされています。高齢の方が滝川なり砂川などの病院にかかるのは大変です。交通機関もそうですし、運転できない方もいるので、今お話がありました耳鼻咽喉科は、週に1回、しかも2時間ぐらいの診療時間で、砂川の先生に来ていただいているのですが、診療時間を増やして欲しいといっても難しいことから、それ以外の出張の先生を含め確保できないかをこれから検討したいと思います。

○市民

北の森カレッジは本当にいいことだと思います。北海道は森林が多いので、きちんと伐採するなどの活用が図られるのはよい。しかし、関係する団体の方が高齢化していて、今から若い人をきちんと育てていかないと自然だって生き生きなりません。学校は旭川となっていますが、全国から集まってくるとなれば、宿舎とか食堂とか、学校としての対応はできているのでしょうか。これから作るのですか。

●農林課主幹

本校は旭川市西神楽の道立林産試験場の中に整備されます。令和2年度開校ということで、最初は1年生だけとなりますが、1年生の教室と職員室は、林産試験場の改修で対応することになっています。令和3年度には、新1年生が入って2学年体制になりますので、令和年度中に新しい校舎と作業場を増築する計画になっています。

しかし、その中に寮などを整備することにはなっていません。道外からも生徒を募集していますので、旭川市内になると思いますが、部屋を探していただくことになると思います。

○市民

前回の懇談会で三段滝公園の話聞いたのですが、進行状況はどうなっていますか。

●総務部長

今のご質問に関しては、最後の市長のあいさつの中で触れさせていただきます。

○荻原市長あいさつ

最後まで熱心に参加をいただきお聴きいただきました。そしてご質問等もいただき、加えて貴重なご意見もいただいたところで、心から感謝いたします。

病院等についてご懸念等もあります。しっかりと市民の皆さんの将来にわたっての命と健康を守っていくということでは、公立病院の立ち位置というのは重要性を増しています。特に芦別は端の方に位置していますので、その砦を守っていくということが必要だと思っています。できるだけ、市民の皆さんにご負担をかけない形で、背伸びすることなく、もてる範囲の中で、市民の皆さんも市立病院を毛嫌いしないで市民の病院として盛り上げていただくことで、先生等も意気に感じることを思います。これから、最終的な方針を確立していきますが、本日いただいた意見等、大変参考になりました。

庁舎の事に関しても同様で、財源の事を横において議論を進めることはできません。将来展望に立って、50年60年70年先のことであり、そうした庁舎づくりは、これからの世代につなげていかなければならない課題でありますから、物を作ればよいというわけではなく、次代の方が持続できる形を見極めながら進めていきたいと考えています。

三段滝については、お伝えした段階から具体的な進捗はない状況ですが、基本的には国道 452 号と道道の富良野美唄線が合流するところの近くに三段滝があります。道道が令和 5 年に完成する予定で、美唄インターから富良野に向かう車両が増えるだろうと思います。三段滝の駐車場は芦別市であり、トイレも含めて整備をしています。こういった状況で、受け入れ機能を果たすことができないと予想されます。また、トイレは推薦でないので水を運んで行って、始末もこちらでしなければならない、芦別市が行っています。利用していただいているのは、芦別市と関わらない方が大半です。年間 150 万の経費が掛かっており、ある日、新聞のコラムにトイレに関する投書をいただいて非難をされたこともあり、また、車両台数が増えることでキャパとしても足りないのも、北海道振興のためにもインバウンド対策としても、北海道や国が主体となって、休憩機能や情報発信機能、トイレ機能など、通年でなくても夏場だけでも整備するべきではないかと申し上げています。国土交通省の北海道局にも申し上げさせていただき、意向をくんでいただいて北海道開発局、北海道、近隣の自治体と協議を進めようという作業に入っています。どういう形がいいのかという話を進める段階にあります。私たちは、引き上げれば良いという形ではなく、全体で北海道の振興を支えていき、景勝地である三段滝をご利用いただいて、導線が繋がれば芦別にお越しいただくことにもなります。これには、452 号の問題もあり、12.9 キロメートル未開通であります。芦別と東神楽、美瑛との間で、今、地すべり対策を進めているところで、だいぶ目途が立ってきています。ここ 1・2 年でボーリングを 180 本ぐらい打つことになっていて、ずれがないか確認しながら進める作業となっており、この作業が正念場で、ここ 2 年ぐらいで目途が立つということです。これによって、本格的なルートが確定しますので、次のステップとして橋が 5 橋、トンネルが 3 つなのですが、スピードが増すと思いますから、これにつながることを願っています。そのことによって芦別のにぎわいにつながっていくと思いますので、そういう意味でもトイレ機能を持つ休憩所というのは必要ですので、これは芦別ではなく、国や北海道が主体となって進めさせていただきたいと声を強くして伝えていきたいと考えています。一度お話をしてから進んではいませんけど、そういう思いと方向性に沿って作業を進めていることを報告させていただきます。

相対的なご意見等いただきまして感謝をもう上げます。さて、一つ申し上げさせていただきますと、芦別も来年度から新しい 10 年間の目標を持ったまちづくりであります第 6 次総合計画をスタートさせます。ここの将来像というのは、皆さんに事あるごとに唱和いただいている芦別市民憲章に準じまして「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げています。この実現に向けましての初年となるのが令和 2 年度になります。令和 2 年度の予算が大詰めを迎えておりまして、スタートとなる年度の予算をしっかりと網羅できればと思っておりますし、皆さんにご理解いただけるように鋭意努力をしているところです。これからも、皆さんと一緒に考え、力を合わせてこのまちを、地域を元気に、そして前へ力強く歩み続けられるように職員一丸となって頑張っていきたいと思いますので、引き続き皆さんのご支援とご協力をお願いしたいと思います。なお、札幌管区気象台によりますと、10 日ぐらいまでは気温が低い状態が続き、11 日からは気温がかなり高くなる予想となるということで、寒暖の差が大きくなることから、体調管理には十分ご注意ください、ご健勝で過ごされることをご祈念いたしまして、懇談会を閉じさせていただきたいと思っております。本日は、夜間にもかかわらず最後までお付き合いをいただいたことを感謝申し上げます、お礼に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

5 閉会

以上